



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2018年2月11 (日) 9:30~12:00 (共済)

参加者 一般：6名 (うち子ども3名)

指導員：4名

テーマ 「草の葉の冬越し：ロゼット」

集合場所の138タワーに来ると、駐車場に植えられ、赤い実をつけているクロガネモチの樹の回りにツグミとヒヨドリがたくさん群れていました。この頃になると、ツグミは北帰に備えて集まって群をつくるので、よく見られる光景です。川原の芝生でも数十羽の大きな群が見られました。

今日のテーマはロゼットです。地面に張り付いて葉を広げているので余り目立ちませんが、この時期の観察の定番の一つです。背の高い草がないこの時期は、この形状でも日光を受けることができ、強い風や雪にも耐えられ、省エネ型で生きていけるのですね。

道路沿いで探してみると、タンポポの仲間、ブタナ、ヒメブタナ、ノアザミ、オニタビラコ、ウラジロチチコグサ、オオアレチノギク、セイタカアワダチソウなどキク科の草が多く見られました。よく似た形の葉もありますが、触れてみると厚さや質感、毛の多さなどの差を感じることができます。キク科の草の他にもオオバコ、アレチマツヨイグサ、スイバなどのロゼットが見られました。

葉の色はスイバなどでは赤味を帯びたものが目立ちます。日光に当たる部分の葉は赤くなっているのに対し、下の方にある陰になった葉は緑色です。紫外線から葉を守るために赤い色になっているのでしょうか。昨年、参加者からこのような赤い葉は緑色に変わるのか、それともこのまま枯れて代わりに緑の葉が伸びてくるのかと聞かれました。そこで昨年3月、スイバの葉にマークをつけ調べてみたところ、緑色に変化したものと赤い色のまま枯れてしまったものの両方が見られました。

さて、12月に川原で見たキツネの巣穴ですが、4つとも砂で埋められていました(昨年も4月に埋められ、残念な思いをしました。)。埋められた辺りには新しい足跡は見られませんでした。1月下旬に下見した時には既に埋められていましたが、その時は埋められた砂の周りに新しい足跡があり、まだ付近にいることがうかがわれました。近くの草原で無事に生き延びて欲しいものです。(報告：齋竹)



(観察会のようす：芝生に群れるツグミを観察中)



(埋められたキツネの巣穴)

<その他観察できたもの>

鳥：カワウ、カワアイサ、ダイサギ、アオサギ、キジバト、トビ、ノスリ、モズ、シロハラ、ハクセキレイ、シジュウカラ、コゲラ、エナガ、カワラヒワ、ホオジロ、メジロ、ハシボソガラス



(ブタナ)



(ウラジロチチコグサ)



(スイバ)



(アレチマツヨイグサ)